瑠璃草

第81巻　第２号
年４回発行
社会福祉法人 慈生会
〒165-0022
東京都中野区江古田３-15-２
ＴＥＬ ０３―３３８７―５５６７
http://www.jiseikai.jp
振替口座　ベタニアの家
００１７０－６－１５３１７

中長期運営方針の見直しとこの一〇年の歩み

櫻井　正昭

フロジャク神父が、困窮した結核患者救済のために、旧中野療養所の近くで「ベタニアの家」事業を始められて以来、その中心的役割を担って来た「慈生会病院」は、一二年前の二〇一〇年三月に医療法人財団建貢会の「総合東京病院」に有償で全面譲渡され、幕を閉じました。

結核治療の急速な進展で診療目的が変化し、地域の急性期の中核病院として経営を続けて来ましたが、新病棟の増築などで累積赤字に加えて負債が膨らみ、補填のために清瀬地区の土地の一部を売却したところ、東京都の監査で、他の福祉事業の充実に方向転換すべきである、との強い指導を受けた結果でした。

それまでとかく本部事務局の取り組みが、慈生会病院の経営問題に偏重していたことを反省し、法人全体に目配りした運営を行うために、今後の在り方を検討することを目的として、その年の一一月に、理事と評議員の一部による中長期経営方針策定委員会が設置され、二〇一二年一月二五日付けで、一〇年後を見通した「中長期運営方針」について答申が出されました。

昨年最終年度を迎えたことから、今後に向けて運営方針の内容を見直す作業を行いましたが、その機会に、これまでの一〇年の歩みを振り返ってみました。

中野地区においては二〇一三年に「保育園」の建て替えを行いました。まず当時の園庭に三階建ての新園舎を建設してから、二階建てだった旧園舎を撤去して、そこを新しい園庭にするという手順でした。ところが跡地の処理が不十分で排水が悪く、大雨の後に数日間、園庭の一部に水がたまって使えないという状態が続いていたので、二〇一七年に地盤改良などの対策を講じたところ、水はけが大幅に改善しました。

また二〇一六年に、中野地区の高齢者福祉関係の在宅系と施設系の事業との間の連絡を密にして、ワンストップサービスとして充実させるため「中野トータルサポートセンター」を立ち上げ、傘下に高齢者関係事業全体が入るよう組織改編を行いました。その一環で、それまで別棟であった「ヘルパーステーション」と「ケアプランセンター」を「ベタニアホーム」の事務所の隣に移し、相互に連携が取れるようにしました。

二〇一七年には「ナザレットの家」を清瀬に移して、翌年に更地にしてベタニア修道女会にお返ししましたが、その場所に「ベタニア宣教センター」が新設されました。

清瀬地区では、二〇一二年と一七年に「ベトレヘム学園」のグループホームを二か所、近隣の民家を借りて開設しました。また二〇一七年の「ベトレヘム学園」の建て替えに伴い、「ナザレットの家」を合築し、一階が乳児院、二階と三階が児童養護施設という形になりましたが、両施設が同一の建物というのは、都内でも数少ない事例になっています。

「聖ヨゼフ老人ホーム」の南側の施設の床が外の庭より低いので、ゲリラ豪雨の度に土のうを使った浸水対策の対応に追われていたため、二〇一九年に本格的な集排水の暗渠工事を実施しました。

また「聖家族ホーム」の建設時からの唯一のエレベータが経年劣化して、故障した場合に部品調達ができないことが判明したので、この四月中に更新工事に着手する予定です。

「ベトレヘムの園病院」では、二〇二〇年に電子カルテを導入して、ペーパーレスによるデータ管理の合理化を行いました。

那須地区では「マ・メゾン光星」の周辺の「聖マリアの山」の山林管理のために、二〇一二年から「こもれびの道」と「まきばの道」と名付けられた作業道の整備に着手しました。また敷地境界の渓流に沿って、「せせらぎの小道」という遊歩道を開設しました。二〇一八年には袋小路だった「まきばの道」を延長して通り抜けできるようにし、翌年から二年かけて、「ひだまりの道」を開設して、全地域の見回りが円滑にできるようにしました。

「マ・メゾン光星」の新たな事業を展開するために、那須町の中心部に近い、国道四号線から少し西に入った邸宅と周囲の樹林を取得して、二〇一八年に放課後等デイサービス「エスポワール」を開設しました。

以上のような歩みを踏まえつつ、八年後の二〇三〇年の「ベタニアの家」創設一〇〇周年を目標年度として、各施設からのヒアリングをもとに次期の中長期運営方針を取りまとめたところです。

（慈生会常務理事）

コロナ禍の中で

シスター國定　光惠

二〇一八年十一月、ナザレト乳児院の跡地に建てられた「ベタニア宣教センター」は、創立者の精神が生かされた「人々の集いの場」として、また「地域に開かれた憩いの場、キリストの慈しみを伝える場」としての使命を歩み始めて、お陰様で四年目を迎えました。

さまざまな講演会・研修会・会議・勉強会・発表会・音楽会・地域の集いなどの会場としてご利用いただいておりましたが、二〇二〇年初頭から発生した新型コロナウイルス感染症のパンデミックにより、私たちの生活は一変し、ほとんどの計画の中止または変更を余儀なくされました。

幸せのダブルレインボー
（ご近所の奥村様撮影）

今まで自由に出来ていたことが不自由になって初めて、どれほど有り難いことであったか、また、私たち人間の力ではどうにもならないことがたくさんあることを改めて思い知る日々となりました。聖書の次のようなみことばが、今更ながら心に響きます。

「あなたがたには自分の命がどうなるか、明日のことは分からないのです」（ヤコブの手紙４・14）。

これは、計画を立てることが無駄だということではなく、どんな計画を立てるときにも、人知を超えた大いなる存在である神の導きを祈り求めながら、神のはからいに信頼し続けることを忘れないように、ということなのではないでしょうか。

創立者の、「み摂理に信頼する」という言葉が重なります。

このような中にあって、私たちのミッションのひとつである「地域コミュニティ」としての役割を担う「協働者」との新しい出会いの恵みをいただいたことを神に感謝しています。

びわの収穫
（ご近所、教会の皆さまと）

今年は特に、ベタニア宣教センターを取巻く環境を生かした戸外活動を取り入れながら皆さまの「憩いといやしの家」となれるよう、希望のうちに歩んで参りたいと思います。

（ベタニア宣教センター）

楽しかったミニバザー

宮澤　素子

新型コロナウイルスの蔓延によって、バザーを中止して二年が過ぎました。行事は、縮小して各部署で出来る範囲で行っていましたが、何か出来ないものかと考えていました。

そんな時に、元利用者さんの娘さんから、手作りの素敵な小物を沢山いただきました。これを何とか活かして、ミニミニバザーはできないかしら・・と呟いたら、「やりましょう！」と賛同してくれる職員がいてくれて、折しもコロナ感染者が少なくなってきた時期ですし、二カ月準備期間をもって、感染対策には細心の注意を払い、密にならないために慈生会の職員とケアハウスの入居者さん、修道院のシスターの皆さま、「あさひの家」の役員の皆さまと限られた方にだけお声掛けさせていただきました。

呼びかけのチラシ

二〇二一年十二月十五日快晴。一〇時からトップはケアハウスの皆さま十二名が連れ立ってご来店！次は包括の職員四名様。三番バッターは「あさひの家」の役員の皆さま三名様。ご記名頂いた方だけでも七一名いらっしゃいました。

なかなか会えない職員同士も久しぶり！初めまして！もあり、やはりこの二年間の交流は無かったも等しかったと感じました。

ご来店者を代表して「あさひの家」の根岸会長と沼田さんに感想を伺いました。

Q 久々にバザーをすると聞いて、心配はありませんでしたか？

沼田さん「何も心配は感じません。感染しないように気を付けて出していらっしゃると思ったので。楽しみにしていました」

Q 参加されていかがでしたか？

根岸さん「ただ、もったいないなと思いました。あれだけのモノがあったので、お知らせを表にアピールして、もっと皆さんに来てもらったらよかった。みんなあったかみのある商品だったね。健康ボールがよかったし、うちの人がクッキーといちごジャムを買ってきたけど「うまいなー」って・・」

沼田さん「たとえば庭にテントを出したりとか、もっと前に出してもらえればいいね」

根岸さん「バザーは安いと思ってくるけど、普段合わない人と会って同窓会のような感じになればいいね」

沼田さん「年に一回と言わず、二回ぐらいしてほしい！」

お二人　「楽しかった！」

＊紙面上略させていただきました

「あさひの家」の皆さまには、本当にいつもお世話になって感謝しかございません。

品物を提供してくださった皆様、休み返上で協力してくれた職員、皆々様に感謝申し上げます。

（中野トータルサポートセンター長）

「聖劇はお祈り！」

角田　恵子

徳田保育園でのクリスマス聖劇が上演されました事に感謝いたします。コロナ禍で感染予防策を徹底し、一昨年は歌うことが出来ず、音を録ってから本番で流すという感じでしたが、今年はピアノを毎日耳で聴き、伝統の聖劇の歌のフレーズをどの学年も体に入っていきました。

「年少」さんの羊の役の可愛らしさ。「年中」さんでは旧約聖書の世界の始まりを、自分たちで描きたい物をパネルシアターに。

「年長」さんは役決めの日、あまり目立たないが重要なお友だちを支える役に「僕やってみたい！」とすぐ立候補したお友達。台詞が覚えられないお友達と一緒に練習したりと、思いやりの気持ちが育っています。

待降節の頃より、イエス様を待ち霊的花束を準備する気持ちをこれからも大事に持ち続けて欲しいです。

音楽指導の横山先生より、「劇はお祈り、発表会とは違う。もちろん一人一人が上手に出来る事は素敵な事だけれど、神様に捧げる物という気持ちを持っていきましょう」と子ども達へ伝えて下さいました。とても美しいひと時が持てました。ありがとうございました。

（徳田保育園　乳児担当）

天地創造の年中さん

羊の役の年少さん

ご降誕劇の年長さん

やってみたい！は成長の第一歩

須賀　志保

春、神さまのお恵みの中で大きく成長した子ども達は、新しいスタートを切ります。三月に卒園した子ども達も、ピカピカのランドセルを背負って、胸を弾ませていることでしょう。

さて、東星学園幼稚園は「子どもが主役」になれる場所です。子ども達と、常にアイデアを出しながら生活しています。昨年度の「年長」は「誰もやったことがないことに挑戦したい」という思いの強い学年でした。

一学期、絵本の世界を真似て、清瀬せせらぎ公園でザリガニ釣りを経験しました。地図を見て道を調べ、下見をして実現可能を確認すると、持ち物を洗い出し実行！子どもの行動力は、私達の想像を超えるものでした。

ザリガニ釣り

二学期、大きな行事はクリスマス会です。例年聖劇をしていますが、昨年はご降誕の人形劇に挑戦しました。舞台も人形もない、本当にゼロからのスタートです。不安からなかなか踏み込めなかった私をよそに、子ども達は身近な机や積み木、カーテンを使って舞台を作り遊び始めました。人形は、粘土遊びの延長として取り組み、衣装は保護者の方にご協力いただきました。登場人物ごとの絵本を読み聞かせると、ごっこ遊びの中で内容が深まり、台本が仕上がりました。「年中」は楽器を使って劇を盛り上げ、舞台を跨いで「年中」と「年長」が心を合わせて人形劇をやり遂げると、会場は大きな拍手に包まれました。子ども達は、毎年このような経験を重ねて、クリスマスの本当の意味を少しずつ理解していきます。

人形劇の練習風景

目を輝かせて過ごした幼稚園生活。ここでの仲間との経験は、これからの人生を豊かにしてくれるでしょう。神さまの愛の下で、それぞれが、各々の場所で、笑顔で輝いていますように…。進級、入学おめでとう！

（東星学園幼稚園　年長担任）

未来の子どもたちからの預かりもの

種まきシリーズ①
ベタニア修道女会

未来の子どもたちからの預かりものである地球を、みんながずっと幸せに暮らし続けられるより良い社会として子どもたちにバトンタッチしたいという思いで、ベタニアのシスターズは「瑠璃草」紙上で皆さまにSDGsのすべてのいのちを守る小さな種まきを未来の子どもたちの笑顔を思い浮かべながら始めます。

さて、近頃よく見聞きするSDGs（エス・ディー・ジーズ）とは日本語では「持続可能な開発目標」。二〇一五年九月に国際連合サミットで、日本を含む一九三の加盟国すべてが賛成して採択され、二〇三〇年までの達成を目指した十七の目標と一六九のターゲットからなっています。キーワードは「誰一人取り残さない」。

二〇二〇年代を生きている子どもたちはすでに学校でこの目標を自分事として学んでいる事は頼もしいです。では、環境を守り、すべての人の人権を尊重しながら経済成長を目指す十七の目標から今回は〔十二〕番の目標◆つくる責任、使う責任に触れます。それはつくる量を考え、使う分だけ買い、大切に使おうということ。

★データより　◎世界人口が二〇五〇年に九十六億人に達するとすれば、現在のライフスタイルの維持にはほぼ三つの地球が必要。◎日本が今の暮らしを維持するなら、現在の七・一倍の面積が必要。

★フードロスや洋服ロス、お花一本でも当たり前のように廃棄をしない。何かを選ぶとき、その物の廃棄まで意識して購入するならゴミを減らし、物を大切にする生活に繋がります。

★修道院では人参・大根など皮を剥かずにスープに、野菜の皮はきんぴらや漬物に、堆肥つくりにも。

日本人が日々使っている物は遠い国で生産されたものが多いですから自分の生活が誰かに害を与えていないか？、人と地球の叫びをリアルに感じ取るなら、SDGsを共有して取り組んでいけると思います。

（記・Sr中野）

訃報

シスターイグナチア　箭内　千鶴子

一九二九年生
一九六三年一一月一〇日
二〇二二年二月一七日
帰天
立誓願生

シスターヨゼファ　渡邉　シゲ

一九二七年生
一九六三年二月二〇日
二〇二二年二月一九日
帰天
立誓願生
ベタニア修道女会

編集後記

ベタニアホームは三回目のワクチン接種を三月初めに利用者、職員希望者全員が終了しました。これで少し、ほっとしているところです。さて、今年の冬は例年に増して寒かったように感じたのですが、いかがでしたか。春がこんなにも待ち遠しいと思ったのは久しぶりでした。今年こそは隣の江古田の森公園に利用者の皆さんとお花見に出かけられたらいいなと思いながら・・・。

（中村　英男）

毎年、例年より多いと言われているような気がする花粉の飛散量。早めに薬を服用しているが、完全ではない。なにより、コロナ禍では、くしゃみや鼻水があると肩身が狭く、花粉症なのかコロナウイルス感染なのか不安になる。子どもたちも同様であり花粉症の子もいるため、症状が出た時に、どちらなのか判断に迷う。どちらもしっかり対策をしていきたい。

（関　広宣）

新年度に向けた編集後記を書いている現在、当施設は、ようやく収まりつつある新型コロナクラスターの事後処理の段階にあります。一月十九日、ご利用者に抗原陽性が出たとの連絡を受けた夜から目まぐるしい日々が始まりました。ようやく通常の流れに戻り始めた中、この経験をいかに今後の私達の支援や業務に生かしていくか、みんなで知恵を出し合い支え合う大切さを痛感する日々です。新年度を安心して迎えられるために。今が踏ん張りどころです。

（杉山　智和）

プーチン大統領のウクライナ侵攻の暴挙と同時期に始まった今年の四旬節（回心のとき）。暴挙の底に潜むものが私の中にも繋がってあるのだから、静かな祈りと断食と愛のわざに熱がよりこもります。今号がお手元に届くときには停戦状況にあることを切に願います。「人間は『平和』という屋根の下でだけ、人間らしく生きられるのです。（相馬信夫司教）」

（Sr中野　利恵）